

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	既存の放射状鉄道を環状方向に結節（駅アクセス）することによる広域的交通ネットワークの形成及び沿線地域の連携強化とまちづくりを目指す大阪モノレール延伸事業											
計画の期間	平成29年度～令和03年度（5年間）											
交付対象	重点配分対象の該当 ○ 大阪府											
計画の目標	現在、大阪空港駅から門真市駅間で営業している大阪モノレールを約9km延伸することにより、新たに地下鉄長堀鶴見緑地線、JR学研都市線、近鉄けいはんな線、近鉄奈良線の4路線と結節（一次アクセス）し、広域的な鉄道ネットワークの形成と沿線地域の活性化を図るものである。											
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	74,000	A	74,000	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標（定量的指標）				定量的指標の現況値及び目標値		
	定量的指標の定義及び算定式				当初現況値	中間目標値	最終目標値
					(H29当初)	(R1末)	(R3末)
1	大阪都心部から放射状に形成された既存鉄道を環状方向に結節することによる、広域的な鉄道ネットワークの形成	-1延伸区間のモノレール利用者（H42需要予測）3万7千人／日			0人	0人	0人
2	大阪都心部から放射状に形成された既存鉄道を環状方向に結節することによる、広域的な鉄道ネットワークの形成	-2各駅乗降客数の合計（H42需要予測）（仮称）門真南駅+（仮称）鴻池新田駅+（仮称）荒本駅+（仮称）瓜生堂駅 15,820人／日+6,108人／日+10,559人／日+14,773人／日=47,260人／日			0人	0人	0人
3	事業費の進捗率	事業の進捗率			0%	2%	9%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靭化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
大阪モノレール延伸事業は平成41年供用を予定しており、整備計画期間の最終年度であるH33末時点では未供用のため指標-1、-2においては0人としている。												

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

大阪府道路室で評価を実施

事後評価の実施時期

令和3年4月

公表の方法

大阪府ホームページに掲載

事業効果の発現状況

定量的指標に関する
交付対象事業の効果の発現状況

広域的な鉄道ネットワークの形成に向け、事業実施中

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

特記事項（今後の方針等）

令和2年度より「ストック効果を重視したアクセス道路の整備による地域・拠点の連携強化」に移行した。
引き続き同事業の着実な進歩を図っていく。

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	0人	
	最終実績値	0人	
2	最終目標値	0人	
	最終実績値	0人	
3	最終目標値	9%	令和2年度より「ストック効果を重視したアクセス道路の整備による地域・拠点の連携強化」に移行 最 終 1% 実
	最終実績値	1%	